



第33回 原子力安全文化有識者会議での ご意見・ご提言への対応状況

2025年10月1日
中国電力株式会社

- 前回(第33回)の有識者会議でいただいたご意見・ご提言については、以下のとおり対応している。

【原子力安全文化育成・維持活動に関するもの 1/2】

ご意見・ご提言	対応状況
<p>(意識調査(アンケート)の分析方法について)</p> <ul style="list-style-type: none">■ アンケート結果については、数値がどの程度まで上がればどれだけ達成されているかを示す理論的な基準があれば、地域の皆様も安心するのではないか。統計的な観点からも、参考となる基準があると考えられるので、調査してもらいたい。■ アンケート結果の傾向は、同じような割合で推移しているが、「そう思う」、「おおいにそう思う」だけでなく、若い世代はこういうふうな意見が出始めているとか、ベテラン層の感想が変わってきた等の変化を調べてみることも大事だと思う。	<ul style="list-style-type: none">■ 電力他社や関係団体等にアンケートの数値基準について調査しましたが、基準を設けている社はございませんでした。アンケートの数値は回答者個人の主觀が含まれるため絶対値での評価は難しく、傾向(数値の上昇・下降)の監視に活用しているとの回答が大半でした。当社でも、アンケート結果の傾向や、昨年から開始した監視評価結果、意見交換会で挙がった意見など、さまざまな情報をもとに、エクセレンスを目指した取り組みを継続してまいります。■ アンケート結果は、年代や役職別のデータも取得していますので、安全文化の分析にあたっては、これらのデータも活用してまいります。

【原子力安全文化育成・維持活動に関するもの 2/2】

ご意見・ご提言	対応状況
<p>(過去教訓の風化防止)</p> <ul style="list-style-type: none">浜岡原子力発電所では「失敗の回廊」という施設があり、過去の失敗を風化させない取り組みを行っている。島根2号機が稼働した今、過去の失敗を風化させず振り返ることが重要。若い人の中には、過去の失敗を知らない人もいるかもしれないのに、「温故知新」で振り返ることに取り組んでもらいたい。	<ul style="list-style-type: none">ご意見の視点を踏まえ、過去の失敗の教訓が風化することがないよう「安全文化の日」の行事や事例教育などの風化防止の活動に継続して取り組んでまいります。また、他社の教訓を国内外の運転経験(OE:Operating Experience)情報として入手し、作業開始前打合せ(TBM、KY)などで活用しています。
<p>(現場への影響力と改善の仕組み)</p> <ul style="list-style-type: none">現場に出向き、現場の意見に対して五感をもってしっかり聞く姿勢が、現場が抱えている問題を解決できると思う。組織として失敗を防ぐ仕組みをつくり、改善策を講じることで、分析する姿勢を浸透させてもらいたい。	<ul style="list-style-type: none">ご意見の視点を踏まえ、マネジメント層をはじめとして、社員が現場の意見を聞き取り、組織として現場が抱える問題の把握・解決ができるように努めてまいります。

【監視評価活動に関するもの】

ご意見・ご提言	対応状況
<p>(評価の観点、人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none">■ 問題の洗い出しや仮説の考察は、楽観的に考えるのではなく、今回の原子力安全監理部門による評価のように、慎重かつ悲観的に考えていくことが重要である。■ 行動観察やデータ分析を行い、仮説を立てて評価していくことは、本質を解明するために優れたやり方であるが、原子力安全監理部門の評価者に大きな発想力が必要となり、そのための人材育成が重要と考える。	<ul style="list-style-type: none">■ ご意見の視点を踏まえ、人材育成の面も含めて、データ収集、分析・評価の質・量を高められる取り組みを進めたいと考えています。■ そのために、策定したミッション、ビジョン、バリューおよびロードマップに沿って、中期的には、分析手法の習熟と改善に取り組むとともに現在の要員の力量を高め、長期的には、人材育成にも資するような分析手法の確立をめざしてまいります。

【共通(育成維持活動、監視評価活動)】

ご意見・ご提言	対応状況
<p>(今後の進め方について)</p> <ul style="list-style-type: none">■ 電源事業本部と原子力安全監理部門の独立性を持った2系統の活動は順調にスタートしたと思うが、内容が幅広くなっているため、ポイントを絞って統合した評価にまとめる、わかりやすい。■ 現在、原子力安全監理部門のデータ収集と分析・評価が終わったところであり、この結果をどのように活用していくか、また電源事業本部の活動とどう連携させて安全文化を育成・維持していくかが重要である。	<ul style="list-style-type: none">■ ご意見を踏まえ、原子力安全文化の状態の評価および評価を踏まえた育成・維持活動への反映に関して、事前にすり合わせを行うなど、連携して対応を進めています。■ 今後も実施部門(電源事業本部)と原子力安全監理部門との十分な連携のもとに、各種の取組みを展開するよう努めます。

【共通(育成維持活動、監視評価活動)】

ご意見・ご提言	対応状況
<p>(本社社員の発電所への理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 本社と発電所に溝があると、独自にいろいろな文化が育ってしまうことがある。本社社員が現場である発電所を理解しているのかを、確認した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本社原子力部門の社員に関しては、2号機の再稼働に向けた検査応援等に、本社から多くの社員を派遣し、一体となって取り組んだことで、双方の理解がより一層深まったものと考えています。 原子力部門以外の社員に対しては、発電所見学を継続して実施し、発電所の現状を直接知る機会を設けるなど、理解を高める取り組みを行っております。 今後もご意見の視点を意識しながら、発電所運営への理解を高める取り組みを継続いたします。

【その他ご意見】

ご意見・ご提言	対応状況
<p>【その他のご意見】</p> <ul style="list-style-type: none">■ 2号機の再稼働が実現して、「安心した」、「緊張感がとれた」などの感情があると思うが、気を引き締めて業務に取り組んでもらいたい。■ アンケート結果は、高い数値を示しているが、「蟻の一穴」で、わずかな気の緩みやミスにより企業全体の社風や体質を問われることもある。社員のメンタルケアやモチベーションの向上に重点を置いて取り組んでもらいたい。	<ul style="list-style-type: none">■ 2号機の再稼働に向けた緊張感は収束しましたが、再稼働したことによりプラント運転状態特有の新たな緊張感が生じており、発電所の運営により一層気を引き締めて取り組んでまいります。■ 2号機の特定重大事故等対処施設や3号機の審査、関連工事も継続しており、こうした緊張感を保ちながら、引き続き、社員のメンタルケアやモチベーション維持向上にも注力してまいります。